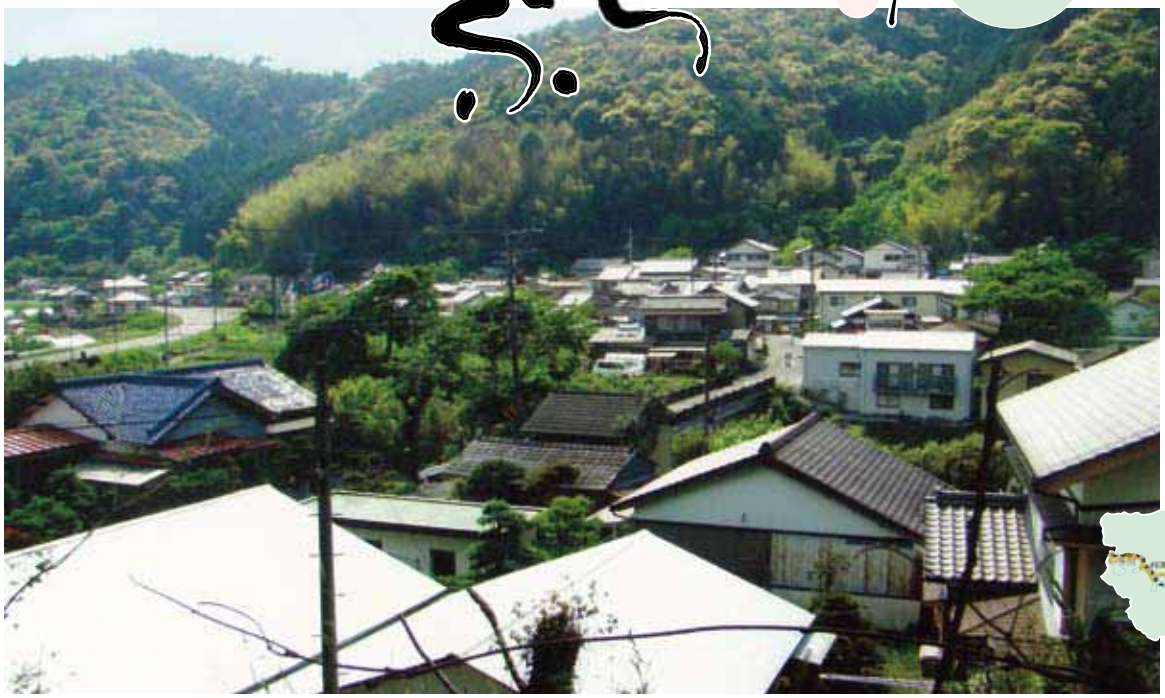
四万十町 ぶらぶら散策



南川口（みなみかわぐち）

折合から流れる井細川が、本流四万十川に合流する位置に開けた集落で64世帯が暮らしている。川口という地名はこの地と旧十和村にもあったため、合併時に南川口と改名した。集落はこじんまりとしていて農家と非農家の区別が解りやすく、都会的な雰囲気をかもし出している。

田んぼは井細川沿い、四万十川沿いも基盤整備されており、専業農家も2軒ある。国道381号に沿ったほ場は平均で一筆4反はあろうかという田んぼが整然と並んでいる。ニラ、キュウリ、水稲ではヒノヒカリ、トオワニシキなどが栽培されている。

鳥居大杉

「ここは便利で住みよい所ですね」「どういてぞね？」小学校に、保育園、郵便局、床屋さん、米穀店、酒屋もあり、消防の川口分団もある。

小学校の校庭は森林鉄道で折合から運んできた官材の貯木場跡。この鉄道は地元の人も利用でき、当初の機関車は木炭車だった、となつかしく聞かせてくれた。

「河内神社の杉は有名ですね」「もう1本あるぞね」その杉は鳥居大杉といい、大きい方は樹齢400年、周囲4・5mで町の指定文化財になっている。神社の石段を登りきったところ、拝殿の前に鳥居のように立っているからそう呼ばれているのだろう。もう1本は、雲龍寺の柊（ひいらぎ）である。枝先まで苔生（こけむ）し、葉は小葉でとげはない。幹廻り1・65mの大樹である。雲龍寺には金色に栽色された観音菩薩座像が祭られ、夏には施餓鬼供養が行われている。

雲龍寺の柊（ひいらぎ）

こうした川の出合い地は、太古の昔から住みやすかったらしく、縄文後期初頭から中葉末の型式と思われる土器が出土している。

『早瀬のあゆのはつらつとみよ洋々のそのゆくて』と校歌にもあり、若者定住住宅からは子どもたちの元気な声が聞こえていた。

町のうごき

（4月30日）	人口	前月比
男	9,215	2
女	10,305	−3
計	19,520	−1
世帯数	8,809	31

	出生	死亡	転入	転出
男	2	13	40	27
女	2	17	41	29
計	4	30	81	56

（4月中の届出）

四万十川の水質状況

	適正値(mg/l)	4月13日
リン酸	≦ 5.0	測定値以下
硝　酸	≦ 0.5	0.235
アンモニウム	≦ 5.0	0.396
アニオン活性剤	≦ 1.0	0.500
化学的酸素消費量	≦10.0	測定値以下

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス http://www.town.shimanto.lg.jp/ ●

※広報『四万十町通信』はホームページでも、ご覧いただけます。（pdfファイル）

四万十町通信
2011.6 月号
Vol.63（毎月 10 日発行）
●編集・発行／四万十町企画課　●取材・印刷／窪川印刷
〒786-8501　高知県高岡郡四万十町茂串町三番二号　☎(0880)22-3124